

令和4年度中国四国産科婦人科学会評議員会議事録

評議員会： 2022年9月18日（日） 午前8：10 - 8：50

於：ザ クラウンパレス新阪急高知 3階 花の間

出席者： 会長 前田 長正（高知）

理事 岩佐 武（徳島） 金西 賢治（香川） 京 哲（島根）

下屋浩一郎（岡山） 杉山 隆（愛媛） 増山 寿（岡山）

監事 坂本 康紀（高知）

幹事 泉谷 知明（高知） 鎌田 泰彦（岡山）

評議員 伊藤 隆志（鳥取） 田中 宏和（香川） 谷口 文紀（鳥取）

花岡有為子（香川） 林 和俊（高知） 三好 博史（広島）

村上 朋弘（広島） 山本 暖（広島）

（欠席者：工藤 美樹、杉野 法広、原田 省、

岩部 富夫、金崎 春彦、河原 義文、栗岡 裕子、

古宇 家正、近藤 裕司、伊達健二郎、田村 博史、

土谷 治子、中塚 幹也、中西 慶喜、中村圭一郎、

中山健太郎、沼 文隆、春名 充、藤田 卓男、

藤野 俊夫、本田 徹郎、前川 正彦、安井 敏之、

矢野 浩史、横山 幹文)

会長挨拶：

前田会長より、評議員会開催の挨拶があった。

朝早くから、ありがとうございます。台風も接近していますので安全第一でさせていただきます。どうか宜しく願いいたします。

報告事項：

- 1) 前田会長より指名を受け、鎌田幹事より令和3年度会員数および会費納入状況、令和4年度会費納入状況、会誌発行状況について報告があった。

質問等、特になし。

- 2) 前田会長より、本年度の学会賞（八木賞）への応募はなかったことが報告された。
- 3) 前田会長より、令和4年度臨床公募研究に、山口大学の末岡幸太郎先生より「IV期卵巣癌

に対する初回手術の術式および手術完遂度と予後に関する調査研究」に関する応募があったことが報告された。

前田会長より、昨日の学術委員会で、内容を一部修正の上で承認された旨が報告された。

質問等、特になし。

協議事項：

1) 令和3年度決算書

前田会長より指名を受け、鎌田幹事より令和3年度会計の報告があった。

収入の部は、過年度会費も含めて、1,279名の会員より計6,395,000円の会費納入があった。機関誌収入の掲載料が2,345,823円であるが、令和4年6月末時点での未納金は347,754円であった。刊行協力費が350,000円と例年よりも多く集まった。学術基金から学術支援費として、学術講演会・総会の開催費支援の増額分である50万円、公募臨床研究支援費の増額分である70万円、「現代産婦人科」のオンラインシステムの年間使用料である35万円、そして昨年の総会で承認された学会ホームページ改訂費用（スマホ対応）の120万円の計275万円を支援費として拠出した。小計が11,883,494円で前年度繰越金と合わせて、22,134,445円が収入合計となる。

支出の部は、総会費として200万円を岡山大学に供出した。機関誌刊行費は印刷費に5,478,000円、発送費に328,485円を要した。なお「現代産婦人科」のオンライン投稿・査読システムの年間利用料は投稿数60編で345,929円（税込）であったが、投稿数が不採録や審査中のものも含めると計77編あり、超過料金が発生している。学会賞は岡山市の三宅おおふくクリニック 宮木康成先生に記念品として楯を準備した。1名の名誉会員（徳島県 苛原先生）を表彰した。学会ホームページは2022年6月末までにスマホ対応版に移行できなかったため、年間メンテナンス費用のみを支払った。公募研究助成金は100万円を川崎医科大学に供出した。Plus One 産婦人科セミナーは第73回中国四国産科婦人科学会学術講演会（岡山大学）中に催行され、開催経費として950,229円を供出した。収支の詳細については、増山前会長より後に報告がある。以上より小計が12,646,648円で、繰越金が9,487,797円であると説明がなされた。

坂本康紀監事より監査報告があった。江尻先生と厳正に監査し、適正に処理されていた旨につき報告された。

そして令和3年度決算書は、全会一致で承認された。

2) 令和4年度予算案

鎌田幹事より報告があった。すでに各財務委員からの承認を頂いている旨が伝えられた。

収入の部については、今年度の会費納入の義務のある会員数は1,276名で、会費納入率は例年99%以上であること、また若干名の過年度会費納入と併せて考え、1,276人分で計算した。また機関誌収入について、刊行協力費は例年厳しく25万円を、掲載料は過去3年間の投稿件数および1編あたりの掲載料より230万円を計上した。学術基金からの学術支援費は、学術講演会・総会の開催費支援の増額分である50万円、公募臨床研究支援費の増額分である70万円、「現代産婦人科」のオンラインシステムの年間使用料である35万円の計155万円を計上した。利息は昨年同様で策定した。小計が10,530,000円で、前年度繰越金と合わせて20,017,797円が収入合計である。なお前年度繰越金9,487,797円には、令和2年の総会で承認され、令和3年度に決算されなかった学会ホームページ改訂費用（スマホ対応）の120万円が含まれる。

支出の部については、総会費は200万円とした。機関誌刊行費は過去3年間の投稿論文数を参考に印刷費を470万円、発送費は昨年同様に35万円とした。英文抄録の英文校正代は昨年度同様に10万円とした。オンラインシステムの年間使用料は投稿数60編として35万円を計上した。委員会費は10万円とした。学会賞費は例年通り3万円とした。名誉会員表彰費は3名分計上した。管理費は例年通りとした。ホームページは学会ホームページの全面改訂費用（スマホ対応）120万円、およびサーバーレンタル料、メンテナンス料として15万円を計上し、計135万円とした。公募研究助成金は100万円とした。Plus One産婦人科セミナーは100万円を上限に予算を計上した。小計が13,270,000円で、6,747,797円が繰越金となると説明がなされた。

そして予算案は、全会一致で承認された。

3) 次期および次々期開催の件

前田会長より、来年の第75回は島根大学が出雲市で、第76回は徳島大学が徳島市で、第77回は山口大学が宇部市で開催することが決定していること。順番からは、その次が川崎医科大学の担当となるが、下屋教授が退官されることから、愛媛大学が繰り上がることに理事会で決定したこと。また原則2に「教授未決定等で順番を入れ替える場合は同じ地方の次の開催地と交代する。」とありますが、これは「四国連合」を開催していた時の取り決めであり現状に即していないとのことですので、本ルールを取り下げるということに理事会で決定した旨が報告された。

第75回（2023年）担当の島根大学の京理事から挨拶があった。

来年の第75回は島根大学が出雲市で開催させていただきます。遠いので申し訳ございません

んが、是非ご参加いただきたいと思います。おそらくウィズコロナでとなりますが、なるべく現地で開催したいと思っています。2023年9月16、17日で次の日が敬老の日で祝日です。よろしくをお願いします。

事務局注

後日、島根大学の京理事より、他学会の開催が同日程で決定していたために第75回の開催日程を2023年9月17、18日に変更したいとの申し出がございました。理事会（メール会議）にて承認されましたので、開催日程を2023年9月17、18日に変更いたします。

第76回（2024年）担当の徳島大学の岩佐理事からは、この度開催させていただくこととなりありがとうございます。会期は2024年9月21、22日で考えています。一応現地で開催したいと思います。遠いので、来てよかったと思える会にしたいですとの挨拶があった。

4) 役員交代について

前田会長より指名を受け、鎌田幹事より報告があった。次期会長は京理事に交代し、各役員の交代についても別紙の如くとなり、任期は2022年9月19日から2023年9月17日までとすることが報告された。

5) 名誉会員推戴について

前田会長から、本年度は推薦がなかったことが報告された。

6) プロジェクト Plus One 産婦人科セミナー収支報告について

増山理事から、昨年の本会で Plus One セミナーを開催したことが報告された。

ZOOM を用いて中国四国の 10 大学をつないでオンライン開催されました。前半は経膈分娩の実況中期。後半は腹腔鏡のドライボックスが行われました。支出は、機材費や撮影・WEB 配信費として 95 万円かかり、学会から援助いただきました。

なお今回の Plus One セミナーの周産期の内容につき日産婦に応募したところ、教育奨励賞に決定いたしました。中国四国全体としての成果と考えております。ご協力いただきありがとうございました。

7) 学会ホームページの全面改訂（スマホ対応）について

前田会長より指名を受け、鎌田幹事より報告があった。

会員からのアクセス向上のため、学会ホームページをスマホ対応にして全面改訂することにつきご承認いただきましたが、着手が遅れており大変申し訳ございません。先日、理事の先生方および会員の若い先生方の意見をもとにホームページのデザインを決定し、現在とり急ぎ作成を進めております。なおホームページの写真については女性の写真以外にも、瀬戸大橋等の中四にちなんだ写真がよいのではという意見もございましたのでこちらも検討させ

ていただいております。

8) 別冊について

前田会長より指名を受け、鎌田幹事より報告があった。

「現代産婦人科」の別冊に関してですが、これまでは30部までは無料としていました。しかし実際には、印刷会社に学会から1編あたり6,600円を支払っており、80編になると50万円程度と結構な金額になるので今後も継続すべきかどうかという事案です。論文はPDF形式で無料でダウンロードできますし、印刷費が年々高くなっているのも実際です。

昨日の理事会で別冊30部無料は廃止し、必要な人は自己負担でとるように決定いたしました。

下屋理事：会則の内規と投稿規程を改訂する必要があるかと思いますがいかがでしょうか。

内規ですので総会に諮る必要はないと思います。

鎌田幹事：会則に関しては、第1条第5項から「30部を超える」の文言を削除するようにいたします。投稿規程も適切に変更いたします。

増山理事：変更内容は、後日メール会議で各理事の承認をいただくようにいたします。

田中評議員：「現代産婦人科」の査読に関してです。「現代産婦人科」に投稿された論文は、ほとんどの論文が相当の修正を行ったうえで採録となっています。投稿数が増加しているようですが、今後さらに増えた場合もこれまで通りにしていくのかどうかにつき考えていただきたい。

鎌田幹事：現状ですが、採録率は約9割となっています。不採録となるのは、倫理的に問題がある場合や、査読者からの修正依頼に応えられずに投稿を辞退される場合が通常です。

田中評議員：時にどうしても駄目な論文があります。リジェクトしたいところですが、編集方針がなるべく通すようにということなので、大幅な修正を行っているのが現状です。今後、投稿論文が増えた場合も全部通していくようにするのでしょうか。

鎌田幹事：論文の多くは、産婦人科専攻医が専門医試験を受けるために必要であるために投稿してくるのと、産婦人科指導医を目指す先生が投稿してくるものです。そのため「現代産婦人科」の採録率はある程度高くする必要があります。

京 理事：ひどい論文が時にあるのは間違いない。査読していて、結局何か言いたいのか、目的が明確でないものがある。研究方法にしてもコホート研究なのか、ケースコントロールスタディなのかよくわからない。研究の仕方をわかっていないものと思われるが、だからといってリジェクトすると、採択できる論文数が大幅に減ってしまう。むしろ教育的にレビューして、妥協せず何回も繰り返すことで、著者も理解してくれるようになる。これがこの

ジャーナルの一番の目的ではないか。レビューを妥協せず、3回でも4回でも行うという方針でよいのではないか。それで著者が撤退してしまうのは仕方ないか。

増山理事：「現代産婦人科」は教育的目的の強い雑誌です。確かに、所属する施設で論文の書き方自体が指導されていないと思われる投稿も散見されます。しかしこれらの論文を査読して、掲載されるまでに仕上げていくことが、中国四国のレベルの底上げにもなると思います。倫理的に問題がある論文をはじくのは仕方ないかと思えます。

9) 地方部会欄について

前田会長より指名を受け、鎌田幹事より報告があった。

「現代産婦人科」の巻末には、現在は鳥取と広島、岡山の地方学会のプログラムが掲載されています。今後は中国四国全県の地方学会のプログラムを掲載するように理事会で決定いたしました。

10) その他

三好評議員：県立広島病院の三好博史です。2週間後の10月1、2日に第48回日本産婦人科医会学術集会を広島で開催いたします。本来は会長の豊田紳敬が挨拶すべきところですが、代わりに三好より挨拶させていただきます。当日座長をお願いしている先生におかれましては宜しく願いいたします。会場はホテルグランヴィア広島です。ライブ配信はいたしません。後日オンデマンド配信をいたしますので、中国四国の先生にも見ていただくことができます。

前田会長より閉会の辞あり、閉会。

以上